

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・商学部

確率論、統計学、論理学といった出題テーマは、商学部の頻出テーマであり、意外性はない。ただ、昨年度以上に、計算問題が増えている。その分、ミスのないように、慎重な対応が求められる。

Iの問1は、期待値の考え方がわかれば、何の問題もなく解けるはず。たとえば、(1)は、 $100(\text{ドル}) \times 0.5 - 50(\text{ドル})$ で、答えは0(ドル)。以下、同じように考えていけばよい。ただし、(8)と(9)は、期待値(期待できる賞金額)ではなく、あくまで実際に得られる賞金額のことなので、勘違いしないようにしよう。

問2は、(a)によれば「無限回足すと期待できる賞金額は無限大になる」わけだから、4の「いくらでも支払える」が正解。

問3は、期待値理論が理解できていれば簡単だ。「期待値理論は、人間がリスクを冒したかららないことを考慮に入れていないから」ということだろう。

IIの問1は、(ア)(イ)(ウ)それぞれの計算方法については、課題文をしっかり読めばわかるはず。ただ、計算そのものは易しいだけに、つまらないミスをしないことが大切だ。また、当然のことだが、三つの方法による答えは近い数字にならないとおかしい。近くなければ、どれかが間違っていると考えてよいだろう。

問2は、まず生命表の考え方が理解できず、つまづく人も多いかもしれない。ただし、表1をじっくり眺めていけば、上下左右の数字の並びに一定の法則性があるのがわかるはず。それを表2に当てはめて計算すると、うまくいく。

問3は、表2の「平均余命」の欄に注目すれば解ける。60歳の平均余命は23.12なので、 $200(\text{万円}) \times 23.12(\text{年})$ で計算すれば、死亡するまでに受け取る年金額が出る。70歳だと平均余命が15.33なので、こちらは $300(\text{万円}) \times 15.33(\text{年})$ 。この2つの数値をもとに計算すれば、答えは簡単に出る。

問4は、まず日本の女性については、NRRである0.68を何乗すると0.01(1人)になるかを計算するとよい。その数値に世代年数(31.5)を掛けて、今年の西暦年(2015)を足せば、西暦何年かの答えも出る。中国の女性のほうも、考え方は同じだ。

問5は、要するに、複数の異なった方法で計算してみることで、人口推定の確からしさを高めるため、ということだろう。

Ⅲは、論理学の問題。問1は、(54) (55) が「普遍性」、(56) (57) が「正確性」であることさえわかれば、あとはほぼ自動的に答えが出る。問2は、命題 q は r よりも「普遍性が低く正確性が高いため、反証可能性が高いとも低いとも言えない」、ということだろう。

総じて、課題文の内容をじっくりと理解して、ケアレスミスのないように慎重に対応すれば、それほど難しい問題ではないはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>